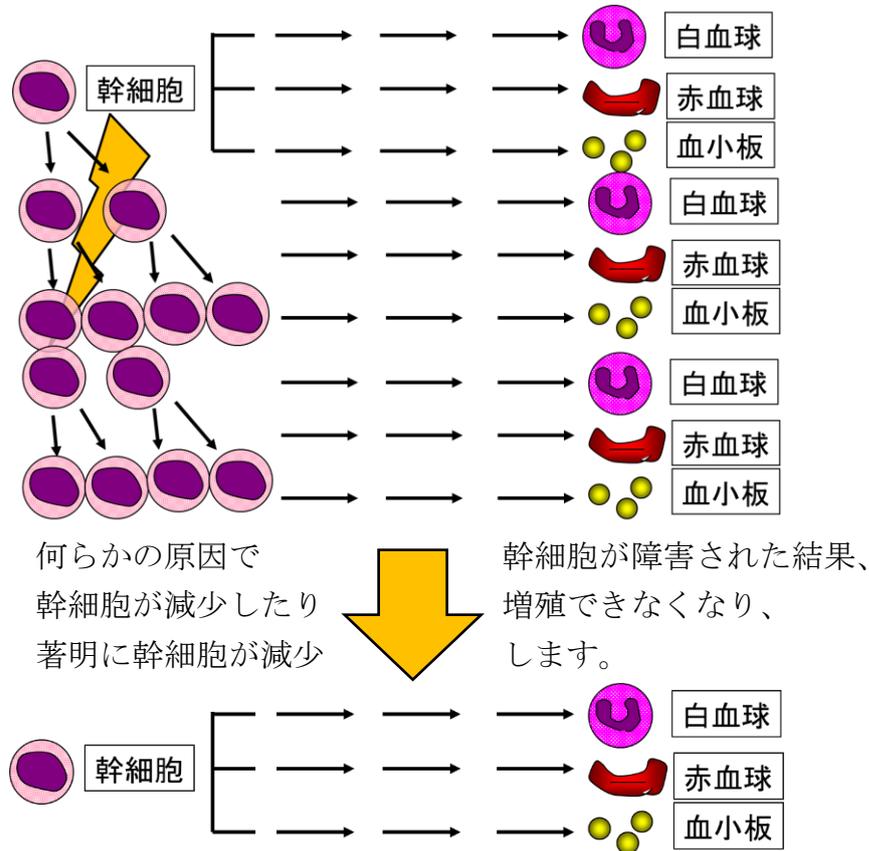


## ⑰再生不良性貧血とはどんな病気？

再生不良性貧血は、何らかの原因によって造血幹細胞から成熟した血球ができなくなる疾患です。その病態は大きく2つに分かれ、それぞれ造血幹細胞自体が増える能力もしくは成熟した細胞に成長する能力が欠如した場合と、造血幹細胞の機能を邪魔する原因を有する場合があります。



後者の場合、自己免疫的（自分の免疫機能によって、自分を攻撃する、いわば自爆効果）な機序が報告されておりまして、免疫抑制療法がよく効きくことが知られています。免疫抑制療法がよく効く患者様の特徴として、血小板減少が優先的に減少したり、骨髄内で血小板の元となる細胞である巨核球（きょかくきゅう）という細胞が減っていたり、後で述べますが、わずかなPNH血球（ピーエヌエイチけっきゅう）という特別な細胞の存在が挙げられます。治療前には必ずこれらの事象を検討いたしますので骨髄穿刺や血液検査が行われます。前者の場合では、血液の種を入れ替えないといけませんので、同種造血幹細胞移植が唯一の治療法となります。

◎幹細胞自身の異常

・・・造血幹細胞移植

◎幹細胞の機能や増殖を抑制

・・・免疫抑制療法

する原因がある場合：PNH血球陽性の場合がある。

（自己免疫的機序）

当院では免疫抑制療法として、シクロスポリンとATG（抗胸腺細胞グロブリン）の併用療法、もしくは高齢者などでは、シクロスポリン単独療法を積極的に行っております。